

平成30年度学校自己評価システムシート (県立大宮工業高等学校 定時制課程)

目指す学校像	心豊かな人間を育成し、生徒の夢を実現する学校
--------	------------------------

重点目標	1 仕事と学校生活の両立を支援し、基礎学力の向上を図る。 2 基本的生活習慣の確立を図る。 3 自己の適性を知り、希望進路を実現する。 4 地域社会に根ざした学校づくりに努める。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 2 0 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 学習面に課題を抱えている生徒が在籍している。 【課題】 学習意欲が育っていない生徒が存在し、基礎学力の差が大きい。	基礎学力の向上を図る授業改善	生徒アンケートや実力テストを通じて、その結果を分析・検討することで、生徒の状況を正確に把握し、基礎学力を定着させるための授業改善を図る。	アンケートによる生徒の授業に対する満足度が上がったか。	生徒生活アンケートによる生徒の授業に対する満足度が高い生徒は89.0%(H29は78.1%)と大幅に増加し、良好な結果となった。	B	満足度が高い生徒が多いものの100%ではない。実力テストにおける結果分析を効果的に用いて更に授業改善に取り組む。
		学習意欲を高める	希望者や成績不振者、出席状況が良くない生徒に対して面談や補習授業などを実施し、個別に対応する。また、授業研修会を通じて、教員自身の資質向上に努める。	成績優良者が増加して、成績不振者が減少したか。	成績優良者31.7%(H29,31.3%)と微増であった。また、成績不振者は26.8%(H29,28.9%)に減少して良好な結果となった。	A	成績優良者の増加、成績不良者の減少から授業改善が進んでいるとみられる。より実践的な内容を取り上げた研修会を実施する。加えて今後は計画的な補習や小テストの実施を推進する。
2	【現状】 基本的生活習慣が乱れている生徒や社会のルールを遵守できない生徒がいる。 【課題】 学校及び担任と家庭の密な連携による指導の充実。	基本的生活習慣の確立を図る取組	①学校生活のあらゆる場面で積極的に「声かけ」・「挨拶」を実施する。 ②全職員により欠席・遅刻を防止する取り組み実施する。	①生徒アンケートにより、生徒の挨拶に対する意識が向上し、挨拶が増えたか。 ②生徒の欠席・遅刻数が減少したか。	①各学期にあいさつ運動を実施するなどして生徒アンケートで「挨拶できる」と答えた生徒は93.2%となり意識の向上が見られる。 ②遅刻が増える時期に指導することで5人中3人の改善が図れた。	A	①あいさつ運動を継続するとともに今年度より実施した情報共有会を継続する。 ②遅刻の多い生徒の傾向を分析し、未然防止を図る。
		5S活動(整理・整頓・清潔・清掃・躰)を意識した規範意識の醸成	①5S活動を心がけることで、より充実した学校環境をつくる。 ②定期的な巡回指導・校門指導の実施及び家庭との連携により、問題行動を防止する。	①5S活動を理解し、自ら取り組む意識が醸成されたか。 ②生徒指導案件の数は減少したか。	①給食前の手洗い、社会体験活動での職場状況などをとおして、5S活動の大切さを理解させた。 ②生徒指導の件数は4件で、昨年度より1件減少した。	B	①社会人としての意識を持たせるため、5S活動を継続させ規範意識の醸成を図る。 ②5S活動とともに巡回指導等を強化し生徒指導案件を減少させる。
3	【現状】 自分の適性がわからず、進路の目標を見出せずにいる生徒が多い。 【課題】 生徒の発達段階と適性に応じた進路目標の設定と実現。	発達段階と適性に応じた進路目標の設定	①定期的な進路アンケートの実施と、県事業を活用した進路指導を実施する。 ②全年次において進路ガイダンスを実施する。	①進路アンケートにより年次ごとに、自分の適性、能力を把握できたか。 ②就職での業種区分及び進学での専攻分野を理解できたか。	①②生徒アンケートの結果から「卒業後の進路をしっかりと考えている」生徒が1回目52.6%から2回目56.2%に上昇した。進路ガイダンスや社会体験活動の実施により将来の進路を考える基礎ができた。	B	①新たに高校生活アンケートを実施し、生徒の意識を把握。来年度以降も引き続き実施する。 ②全年次で進路ガイダンスを行うことができた。今後は内容について精査していく。
		進路決定率100%の実現	①社会人基礎力を身につけさせるための機会を意識する。 ②進路実現に向けて就職者・進学者を対象とした計画的な補習等の指導を実施する。	①課題研究を含めて、社会人基礎力を育成する機会は増えたか。 ②進路決定率100%が実現できたか。	①社会体験活動やSST・課題研究発表会を通じて発信力・傾聴力・柔軟性やプレゼンテーション能力の向上を図れた。 ②高等技術専門校の結果待ちの生徒1名を除いた全員の進路が確定。	A	①5S活動の充実と高校生自立支援活動等で発信力・傾聴力・柔軟性の定着を図り、実行力の向上に繋げる。 ②早期から進路意識を高め進路に対する準備を始める。
4	【現状】 地域との連携が育ちつつあるが改善の余地がある。 【課題】 有効な学校情報の内容と発信方法の検討を進め地域における学校理解を更に深める。	学校情報の発信	①HPの更新を週1回行い、さらに新しい資料を作成し、学校情報の発信を行う。 ②地域の行事等に参加する。	①地域、小・中学校に最新の学校情報を発信できたか。(H29年度61回) ②地域の行事等に参加できたか。	①HPでは60回の発信で学校行事を網羅。今後は内容充実を図りたい。 ②スクアードストレートによる交通安全教育を実施。近隣児童・生徒の参加を促した。	B	①HPへの掲載に止まらず、学校情報を伝える方法を模索する。 ②交通安全教育の後の情報発信方法を探す必要がある。
		地域の小中学校との連携	中学校訪問や中学校教員向け説明会により情報交換を行うと同時に、地域住民・小学生を主な対象に親子木工教室等を実施する。	地域の小中学校との情報交換に努め、地域を取り込んだ行事・親子木工教室等が実施できたか。	中学校訪問を2回、母校訪問も実施し、学校説明会や体験入学も実施。また、産業教育フェアに参加し組子細工の販売や製作体験を行えた。	B	産業教育フェアへの参加はもとより、更に小中学校との交流を深める方策が必要である。

学校関係者評価
実施日 平成31年 2月26日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・嫌いなものは誰でもきらい。好きな事を見つけて伸ばして、「少しずれたな」と感じている生徒にも、厳しくせず暖かく見守って欲しい。 ・成績不審者については、家庭との連携を大切にしたい。本人の関心を引き出し、好きなことに取り組む姿勢を作りたい。 ・基礎学力の定着としての小テストを各年次で実施して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の欠如は、家庭教育の不十分さから来るため、保護者の協力が大切であり欲しいところである。 ・課題研究発表会へ毎年参加させていただいているが、毎年、発表の仕方も良くなっており在校生に対しても良い影響を与えている。 ・SSTやサボスタなど聞ききれない言葉があったため調べてみたが、そこに力を割いているとなると教職員の負担は大きい。
<ul style="list-style-type: none"> ・工業とは関係ない進路となった場合でも、工業の知識は必ず進路先でも役に立つはずである。 ・中学校、高校の中で自分のやりたいことを選択しきることは難しいので、たとえ回り道にしても気にすることはない。 ・ここでやっていることは何かしらの形で生きてくる。自分なりに工業高校の知識や仕組みを、学んでそれらを昇華していけば、別の分野でも活用することができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者への案内をHPに載せて欲しい。 ・給食の献立をHPに載せてくれると、夕食の重複も回避できるので助かる保護者がいるのではないかと。 ・文化祭において、保護者と生徒会でチームを組んで、飲食店をやってみるのも良いかも知れない。

